

口腔育成系診療科 予防歯科

外来 外来診療棟C 4F 連絡先 022-717-8330(外来)



科長
小関 健由 教授

主な対象疾患

- 悪性腫瘍手術（頭頸部癌、白血病等）に関連する口腔有害事象の予防、管理
- がん薬物療法による口腔有害事象の予防、管理
- 頭頸部放射線療法による口腔有害事象の予防、管理
- がん緩和医療患者の口腔有害事象の予防、管理
- 口臭

診療内容

予防歯科学の特色は、口腔疾患の予防や口腔に関わる全身疾患の予防を行い全身の健康増進を図ることにより、個々の患者さんがその方らしい生活を送ることができるように支援することです。特定機能病院そしてがん診療連携拠点病院でもある当院の予防歯科では、周術期等において、特に集中的な管理が必要である患者さんを対象に口腔管理を実施しています。

当院の周術期等における口腔管理は、予防歯科内に設けられた周術期口腔支援外来に始まり、2015年4月には周術期口腔支援センターが開設され、現在の形となりました。周術期口腔支援センターは病院の医科部門と歯科部門における医科歯科連携の窓口となっており、予防歯科はセンターと緊密に連携し患者さんそれぞれに必要な口腔管理を実施しています。抗がん剤等を使用した化学療法、頭頸部腫瘍に対する放射線療法や手術、造血幹細胞移植などにおける口腔管理を中心とし、セルフケア方法の指導から院内往診まで多岐にわたる診療を行っています。

また、医科歯科連携および病診連携の中継役として、院内の医科部門と歯科部門を繋ぐだけでなく、医科の治療終了後はできるだけ早く地域のかかりつけ歯科医院のもとへ経過報告と共にご紹介することを心がけています。

保険外診療とはなりますが、口臭でお悩みの方への診療も行なっています。機器検査と人の嗅覚を利用した検査を行い、結果に基づいた専門的な助言と指導を行います。

診療体制

新患者さんは毎日午前11時までの受付となります。口臭外来については毎週火曜日の午前中に予約枠を設けています。再来予約診療は各担当医による予約制となり、事前予約が必要です。予防歯科には様々な全身状態の患者さんが受診されます。それぞれの全身状態に応じた安全性の



車椅子に点滴装置を付けた患者さんの診療等、様々な患者さんの状態に対応しています。

高い診療体制を整えるため、予防歯科診療室の全歯科診療ユニットには酸素および吸引用のポートが設置されており、全身管理用モニタ、酸素吸入装置、吸引用機器が常時使用可能な状態です。また、車椅子上で診療するための簡易安頭台や点滴等のライン保持のためのスタンド、体制保持用クッション、ビデオエンドスコープ(VE)、様々な口腔機能測定機器等、診療中の患者さんの負担軽減や医科との連携診療に必要な機器も多数設置しています。

得意分野

●周術期等口腔管理

様々な医科手術、化学療法、放射線療法、造血幹細胞移植など、多岐にわたる医科処置症例における周術期等の口腔管理を行っています。手術の際には、挿管などに歯を保護するマウスピースの作成や誤嚥性肺炎の発生抑制のための術前後の口腔衛生管理を中心とし、化学療法では、口腔粘膜炎の予防や重篤時の口腔管理等を行います。頭頸部領域の放射線療法では口腔粘膜炎への対応や、治療後の放射線性顎骨壊死防止のための口腔管理に関する指導等を実施しています。最終的には、患者さんの全身状態等の情報を共有しながら、かかりつけ歯科等において継続的な口腔管理が実施されるように地域医療機関との連携に努めています。

●口臭外来

口臭検査室にガスクロマトグラフ、当科開発の口臭測定器プレストロン等の口臭測定用専門機器を備えており、機器検査、官能検査、詳細な問診項目等をもとに専門的な助言と指導を行います。保険外診療となりますが、検査を行うことで口臭を客観的に測定することができます。口臭があればその臭いの強さがわかりますし、実際の口臭は少ない場合、口臭があると思いつていることが判明する場合もあります。口臭でお悩みの方については、口臭外来へご紹介ください。



周術期の口腔ケアに関するオリジナルの冊子を患者さん用に作成しセルフケアを支援しています。

ご紹介いただく際の留意事項

■現在、予防歯科での新患受入は、基本的に当院で医科処置を実施する患者さんを対象としており、従来の口腔健康管理に関してはかかりつけ歯科での受診を推奨しています。また周術期等の患者さんは、医科での処置が開始となるまでの待期間間や退院後、処置終了後などにも口腔管理が必要な場合があり、状況に応じてかかりつけ歯科での加療をお願いいたします。その際に、予防歯科ではかかりつけ歯科での診療支援・相談を行いますので、随時ご連絡下さい。